

各地の取り組み ―島根県における植物防疫業務―

島根県病害虫防除所 永島 進

島根県農業の概要

島根県は中国地方の北部にあり、東西距離が約230kmと細長く、北は日本海、南は中国山地に囲まれています。さらに、島根半島の北方40～80kmの海上には、島前、島後などから成る隠岐諸島、そしてその北西には竹島があります。本県農業は、水稻の比重が高いことが特徴であり、2009年は農業粗生産額581億円の内、米が225億円で39%を占めました。このように稲作依存型の農業形態であることから、米価の低迷や米の生産調整に大きく影響されます。

病害虫防除所の組織変遷

病害虫防除所は、1984年に県内7か所から1か所に統合され、さらに1995年には病害虫の研究部門と統合されました。現在では農業技術センター・病虫グループの全職員が病害虫防除所を兼務し、所長を含めて9名体制で露地栽培の作物（水稻、野菜、果樹）を中心に発生予察調査を行っています。今後は、少ない職員で植物防疫業務に取り組むために、業務の効率化、合理化に加えて専門技術のノウハウの伝承を行う必要があると考えています。

新たに侵入する病害虫への対応

近年、県内で新しく確認される病害虫が増加してきており、2002～2012年の約10年間に特殊報で発表した病害虫が17種類にのぼります（表）。また、2008年には中国から飛来することが明らかとなったヒメトビウンカによるイネ

縞葉枯病が、数十年ぶりに県内で大発生しました。このように虫媒伝染性のウイルス病害が多くなってきており、全国で発生が拡大しているウメ輪紋ウイルス、イネ南方黒すじ萎縮病、ウリ類退緑黄化病等の病害虫の侵入に警戒しています。これら新たに侵入する病害虫については、職員の同定技術向上をはかり早期発見に努めるとともに、関係機関へ迅速に情報提供し、素早い対応をとることによって被害を最小限に抑えることができるものと認識しています。

新たな取り組み

従来から病害虫発生予察情報、葉いちもち情報、果樹カメムシ情報等を発信してきましたが、これらに加えて2009年からはカキのフジコナカイガラムシの防除適期の予測情報をホームページで発信しています。フェロモントラップを現地のカキ園に設置し、雄成虫の誘殺数を調査します（図）。これを基にして有効積算温度を用いて次世代の発生時期を予測します。情報は年2回発表しており、現地では適期防除に活用されています。

また、ホームページの閲覧者が病害虫の診断等に活用できるように、病害虫データベース（<http://www.pref.shimane.lg.jp/nogyogijutsu/gijutsu/byougaityuu/mokuji.html>）を作成し、公開しています。これは10年以上前からの取り組みですが、今後さらに充実させるために、特殊報で発表した病害虫を中心に追加していく予定です。

表 島根県における特殊報発表内容（2002～2012年）

特殊報発表年	作物名	病害虫名
2002年	スイセン	キュウコンコナカイガラムシ
2004年	キク	えそ病（TSWV）
2005年	トマト ピーマン、メロン	黄化萎縮病（TbLCV） タバココナジラミバイオタイプQ
2006年	イチジク トマト	イチジクヒトリモドキ すすかび病
2007年	キク ダイズ	アワダチソウグンバイ ミナミアオカメムシ
2008年	キク バラ	茎えそ病（CSNV） バラハオレタマハエ
2009年	トマト チャ	黄化葉巻病（TYLCV） チャトゲコナジラミ
2010年	ブルーベリー	リンゴサビダニ
2011年	イチジク トルコギキョウ スモモ	イチジクモザイク病（FMV） キキョウトリハ 斑入果病（HSVd-Plum）
2012年	インパチェンス	べと病



図 フェロモントラップの設置状況